

森田 甲浪（もりた・こうろう）

1、プロフィール

歌人。同郷の詩人・大塚甲山の影響を受け、生涯、短歌や俳句の創作を続けた。筆名は甲山にあやかり、森田甲浪を名乗った。戦前戦後を通じ、代議士を7期にもわたり務めた。

<生没>

1890(明治 23)年5月 25 日 ~ 1988(昭和 63)年5月 12 日

<代表作>

歌集『實相』

句集『あしあと』

詩集『森田重次郎詩選』

<青森との関わり>

上北郡浦野館村(現上北町)に生まれる。代議士として活躍。教育にも関心が深く、八戸短大の学長も務めた。

2、作家解説

本名は重次郎。明治 23 年5月 25 日、上北郡浦野館村で、森田幸次郎、妻ミンの長男として生まれる。当初、教員の道を志した甲浪は七戸高等小学校卒業後、同校の教員養成所へ進み、百石小学校の准訓導を拝命。明治 43 年に青森師範を卒業し、尋常高等小学校長を拝命。大正 10 年上京。13 年弁護士試験に合格し、15 年神田神保町で弁護士を開業。昭和 11 年、東北自治連盟を結成し、師と仰ぐ江渡狄嶺の五戸町宅を借りて塾を開く。12 年民政党から衆議院議員選挙に立候補し当選。16 年「義務教育費国庫負担法」本会議上程の際の甲浪の演説がきっかけとなり、「国民教育振興議員連盟」が結成された。この連盟の活躍により、18 年「大日本育英会(のちの日本育英会)」が設立され、奨学制度が始まる。戦後、自民党県連会長や厚生政務次官などを務めた。また、教育への関心は衰えず、

45年から八戸短期大学長を務めた。甲浪は同郷の詩人・大塚甲山の影響を受け、生涯、短歌や俳句の創作を続けた。これらの甲浪の活躍が評価され、52年には上北町名誉町民第1号に選ばれた。56年、句集『あしおと』、57年歌集『実相』を刊行。晩年は仏教の思想に基づく『世界政治之第一原理』を著し、理想世界の実現を目指す政治の確立を論じていた。昭和63年5月12日逝去。享年97。

3、資料紹介

○歌集『實相』

図書

1982(昭和57)年3月10日

212mm×150mm

著者の生涯にわたる短歌を収める。「生」の記録という意図のもとに編まれる。井出一太郎(元内閣官房長官)が序文を書き、横山武夫(元副知事)等が読後の感想を寄せている。森田の自伝として読むことができる。